

	<h1 style="color: red;">情報</h1>	<p>特定非営利活動法人 <b>炭鉄の記憶推進事業団</b>          理事長 吉岡宏高          〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3          そらち炭鉄の記憶マネジメントセンター          TEL 0126-24-9901 FAX 0126-24-9902  <a href="http://www.soratan.com/">http://www.soratan.com/</a></p>	<p><b>No. 021</b>  <b>2021/04/01</b></p>
---	---------------------------------	---	--

**2月27日 定期総会を開催**

設立から13周年を迎えた2020年は、新型コロナウイルス蔓延による影響で、十分な活動を展開することができませんでした。そのような制約の中でも、国の誘客多角化事業の受託など、今後の展開の萌芽となるネタを積極的に取り入れるよう努力しました。

[活動計画に対して: ○=達成 △=途上 ×=未了]

## 報告 2020年

### ■出版事業

△ブックレット・解説資料の刊行：コロナの影響によって十分な活動が展開できませんでした。しかし、2021年春に島津興業の近代化に関する冊子をブックレットシリーズの一つとして出版する予定であるほか、《炭鉄港》協議会事業でのガイドマニュアル編集にあたって吉岡理事長がその大部分を執筆しました(2021年3月発刊予定)。

### ■炭鉄遺産事業

×ぶらぶらまち歩きの開催：コロナの影響によって、全て中止せざるを得なくなりました。  
 ○奔別敷地公開の実施：コロナの影響によって当初計画していた期間を短縮せざるを得なくなりましたが、夏休み中の6日間の公開で延べ672名が来訪しました。一方で、9月19～21日に三笠ジオパーク推進協議会との共催で「幾奔まつり」を開催したことは、奔別の保存公開にとって画期的なできごととなりました。

### ■学術支援事業

△歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続：吉岡理事長が2020年4月から(株)島津興業顧問に就任したことによって、月例で北海道～鹿児島を往復する体制となり、今後の鹿児島との連携強化が期待されています。《炭鉄港》協議会事業で、鹿児島と空知の小中学校を結ぶWEB授業が展開されました。10/29には鹿児島から北海道へ、11/09には北海道から鹿児島への授業が行われ、後者では吉岡理事長が鹿児島に向けてのガイド役を担いました。  
 ○地域シンクタンクとしての展開：後述する誘客多角化の取り組み、模擬坑道再建への支援など、地域シンクタンクとしての機能を発揮しました。

### ■市民団体連携事業

△《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・

団体との連携：《炭鉄港》協議会の活動に積極的に貢献するとともに、各地での講演、小中学校の授業、JR団体臨時列車への添乗など、《炭鉄港》の普及啓発に向けて取り組みを強化しました。これらの地道な活動が評価され、1月には北海道地域文化選奨特別賞を受賞しました。

○国内外の関係者・団体への対応：マネジメントセンターには多様な求めが寄せられ、これに積極的に対応しました。

### ■拠点施設事業

△そらち炭鉄の記憶マネジメントセンターの位置づけ・機能の見直し：コロナの影響で、3月から5月の約3ヶ月間は休館・変則開館を余儀なくされました(03/01～03/10 臨時休館、03/11～03/31 土日祝休館、04/08～05/26 臨時休館)。しかし、《炭鉄の記憶》のワンストップ拠点としての認識が定着していることや、《炭鉄港》事業の遺産カード配布との連動などによって、2020年1～12月の入館者数は4,243名(2018年4,763名・2019年4,998名)となり、コロナ閉館による影響を軽微に止めることができました。位置づけ・機能の見直しについては、コロナによる影響によって十分に検討できませんでしたが、ツアーの起終点や広域的事業の事務局など新たな機能の発揮を試行しているところです。

### ■ヘリテージツーリズム事業

△《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進：コロナの影響により岩見沢夕張・赤平を結ぶ広域周遊は具体化できませんでしたが、国(観光庁)の誘客多角化事業(20百万円、10/10補助)を獲得し、夕張市・美唄市・三笠市・東武トップツアーズ・空知総合振興局で、ポストコロナ時代を見据えたツーリズムのコンテンツづくりを試行しているところです。

△鹿児島との相互交流事業：コロナによって、2020年10月に予定していたAIR-DO

チャーター便によって鹿児島と北海道を相互送客する計画は延期せざるを得なくなりましたが、2021年10月に実施する方向で予算確保など継続的に準備を進めているところです。これに代わる取り組みとして、[学術支援事業]で前述した通り、北海道と鹿児島の小中学生とのWEB事業を行いました。

### ■石炭博物館事業

△指定管理業務の着実な実施：2020年4月から吉岡理事長が札幌国際大学教授を辞して館長として常時駐在するとともに、役員が交代で現場勤務を担当するなど、指定管理業務を着実に実施する体制を強化しました。コロナの影響によって、2020年シーズンの開館を04/24から06/04に延期せざるを得なくなりましたが、環境整備や取り組みの強化によって、有料入館者数は10,277名と1万人を超えることができました。  
 ○博物館の質的充実に向けた展開：リニューアルのコンセプトとして「常に変わり続ける博物館」を標ぼうしながら、人材を得なかったことや管理体制の不備から2シーズンの間全く変化が見られなかったことを踏まえて、2020年シーズンには約200項目にわたる新規の改善取り組みを行いました。その結果、顧客満足度の向上と底堅い評価の定着が図られるとともに、設置者からも評価されました。市教委との関係も、2019年10月以降は良好な関係が構築され、模擬坑道の再生に向けて市教委に協力するとともに、設置者と共同で地下展示扇風機の改修を実現(2021年3月稼働予定)するなど、具体的な成果を上げつつあります。

### ■会務

△会員サービスの充実：2月の会員交流会開催、石炭博物館優待券配布など、会員サービスの向上に努めました。

×企業賛助会員の拡大：コロナの影響で新規会員の募集は進みませんでしたが、《炭鉄港》構成資産の一翼を担っている小林酒

造(株)に入会頂けたことは大きな意義があります。

△**新たな経営戦略と運営体制の検討**: コロナによる影響や赤平 GC での環境変化によって、今後の動向に不透明感があることから、成案を得るまでに至りませんでした。夕張 CM の模擬坑再建の進捗や《炭鉄港》日本遺産後の見通しを踏まえて、引き続き継続的に検討を進めます。

○**会員数**: [2020年12月末] 総数 = 339 名 (昨年末 351 名)、運営会員 = 52 名 (同 55 名)、一般会員 = 263 名 (同 273 名)、賛助会員 = 24 社 (同 23 社)、[動静] 入会 = 16 名 (同 35 名)、退会 = 会費滞納整理 21 名 + 任意 26 名 (同 20 名)

## ■ 計画 2021年 ■

### ■ 出版事業

- ブックレットの発刊
- 関連資料の制作・公開

### ■ 炭鉱遺産事業

- コロナ下に対応した新たな形のぶらまちな歩きの試行
- 奔別立坑周辺利活用の取り組み

### ■ 学術支援事業

- 歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続
- 地域シンクタンクとしての展開
- 教育機関との連携

### ■ 市民団体連携事業

- 《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携
- 国内外の関係者・団体への対応

### ■ 拠点施設事業

- そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実
- 会員による運営支援の試行

### ■ ヘリテージツーリズム事業

- 誘客多角化事業
- 鹿児島との相互交流事業

### ■ 石炭博物館事業

- 指定管理業務の着実な実施
- 博物館の質的充実に向けた展開
- 模擬坑道再建に向けた支援

### ■ 会務

- 会員サービスの実施
- 企業賛助会員の拡大
- 新たな経営戦略と運営体制の検討

## ■ 財務諸表 ■

### ■ 2020/12/31の財務状況

科目	2020 決算	
<b>資産の部</b>		
流動資産	現預金	25,635 <small>北洋銀行普通預金など</small>
	売掛金	0
	棚卸資産	352 <small>販売用書籍</small>
	前払費用	1,620 <small>前払家賃・誘客多角化</small>
	立替金	189 <small>石博模擬坑電力料</small>
	仮払金	575 <small>税中間納付</small>
小計	28,371	
固定資産	什器備品	1,582 <small>除雪機・大判プリンター</small>
	減価償却累計額	▲ 1,079
	敷金・出資金	100 <small>事務所敷金・信金出資金</small>
小計	603	
資産合計	28,974	
<b>負債の部</b>		
未払金	1,740 <small>電力料、法定福利費</small>	
前受金	25 <small>誘客多角化</small>	
短期借入金	20,000 <small>信金から誘客多角化</small>	
負債合計	21,765	
<b>正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産	7,039	
当期正味財産増加額	170	
正味財産合計	7,209	
負債および正味財産	28,974	

単位: 千円



## 石炭博物館

### 営業開始は4月24日(土)

冬季閉鎖していた夕張市石炭博物館は、4月24日(土) 10時から今シーズンの営業を開始します。

オープン当初の企画展は、①大露頭を発見した坂市太郎を中心に北海道で鉱山開発に活躍した人々、②大正時代に100kmのネットワークを完成させた北炭送電線を巡る旅(昨年度展示からパワーアップ)の二本立てです。

▷開館時間: 9月30日(土)まで 10:00 ~ 17:00 (最終入場 16:30) / 10月1日(日) ~ 11月7日(日) 10:00 ~ 16:00 (最終入場 15:30) ▷休館日: 火曜日(04/27・05/04、08/10は火曜開館)、冬季 11月8日(土)▷☎ 0123-52-5500  
<https://coal-yubari.jp>

### ■ 活動計算の 2020年決算・2021年予算

科目	2020 決算	2021 予算
<b>経常収益</b>		
受取会費	1,980	2,500
寄付金	148	200
事業収益	25,825	24,700
補助金	1,300	20,000
その他	2,707	0
経常収益計	31,960	47,400
<b>経常費用</b>		
人件費	13,919	13,000
出版事業	13	400
ツーリズム事業	495	20,000
遺産保活事業	30	200
学術支援事業	2,677	1,000
市民連携事業	479	300
拠点施設事業	1,643	1,800
石炭博物館事業	9,192	9,000
その他事業	1,389	0
小計	29,837	45,700
管理費	660	300
その他経費	1,525	1,300
小計	2,185	1,600
経常費用計	32,022	47,300
+ 経常外収益	455	0
当期正味財産増加額	393	100
- 法人税・住民税・事業税	223	100
前期繰越正味財産額	7,039	7,209
当期正味財産	7,209	7,209

単位: 千円

## 人事異動

2021/02/27 ▷通常総会で理事に選任: 吉岡宏高・大橋二郎・植村真美・酒井裕司・平野義文・石川成昭・仲嶋憲一 (再任)、熊谷隆文 (新任: 前監事・元石炭博物館館長)、上遠野敏 (新任: 元札幌市立大学教授)、北口博美 (新任: 法人職員・事務局長)▷同監事に選任: 加藤愉朗 (再任)、三上秀雄 (新任: 元理事・赤平コミュニティガイドクラブ TANtan 代表)

2021/02/27 ▷第2回理事会で理事長に選任: 吉岡宏高 (再任: 夕張市石炭博物館館長兼任)▷同副理事長: 大橋二郎 (再任: 前任副理事長)・植村真美 (再任)▷同常務理事: 酒井裕司 (再任: 奔別担当)、石川成昭 (新任: 夕張市石炭博物館担当)▷同事務局長: 北口博美 (現任)

## 事務局から

奔別鉱ホッパーの東側屋根が、累計積雪量 16 メートルという豪雪の影響で倒壊しました。炭鉱遺産のアート展示で皆さんにもお馴染みな施設がただけに残念です。雪解けを待って施設所有者の(株)ホッコン・芳賀社長と相談して、今後の対応を検討する予定です。